

○事業所名	こどもサークル真岡（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 17日		～ 2026年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2025年 12月 22日		～ 2026年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラム内容の充実ときめ細かな支援が行えていること。	個別活動のワーク等では、職員のみで準備を行うのではなく、利用児童と一緒に準備を進めることで、準備段階から楽しさや達成感を味わえるようにしている。 また、集団活動では利用児童に手本を示してもらうなど、児童が主体的に活躍できる場を設けている。職員間で事前に話し合いを行い、多様な内容のプログラムを立案・実施している。	季節感を感じられる取組をさらに増やしていくとともに、研修や勉強会への参加、職員個々の学びを通じて、児童や保護者のニーズに沿った質の高いプログラムを提供できるよう努めていく。
2	幅広い年齢層の児童同士が関わる機会を持っていること。	小学校1年生から高校3年生までの児童が通所しており、異なる年齢層の児童同士が関わる機会を設けている。高学年の児童が低学年のお手本となる場面も多く、異年齢交流を通して社会性スキルの獲得につながっている。	高学年・低学年ごとにグループ編成を行うなど、年齢や発達段階に応じた役割分担や協力体制を取り入れた活動内容を、今後さらに充実させていく。
3	児童一人ひとりの特性や状況に応じた柔軟な関わりが行えていること。	児童のその日の体調や気分、特性等を踏まえ、活動への参加方法や関わり方を柔軟に調整している。無理に活動へ参加させるのではなく、個々のペースを尊重しながら安心して過ごせるよう配慮している。	今後も児童一人ひとりの状態把握を丁寧に行い、個性を重視した支援を継続するとともに、職員間での共有を通じて、より質の高い支援につなげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の関わりが限定的であること。	保護者同士の関わりは保護者会の場に限られることが多く、それ以外で情報共有や交流を行う機会を十分に設けられていないため。	保護者会以外にも、親子で参加できるイベント等を企画・実施し、保護者同士の横のつながりを広げ、情報共有が行える機会を増やしていく。
2	日常生活スキルの差への対応が十分でない場合があること。	利用している児童の年齢幅が広く、日常生活スキルに大きな差がある場合、同一の活動内容では一部の児童にとって適さないことがあるため。	年齢や発達段階に応じた別プログラム（サブプログラム）を作成し、児童一人ひとりに適した活動内容を提供できる体制づくりを進めていく。
3	支援内容や児童の成長の様子について、保護者への伝え方に差が生じる場合があること。	職員ごとの経験や視点の違いにより、支援内容や児童の変化についての伝え方にばらつきが生じてしまう場合があるため。	職員間で支援内容や児童の成長の捉え方について共通理解を図り、記録や申し送りの方法を工夫することで、保護者へ一貫した説明が行えるよう改善を進めていく。